



Chance for Children

公益社団法人 チャンス・フォー・チルドレン

ANNUAL REPORT

2024 2025

年次報告書

多様な学びを
すべての子どもに



子どもたちの教育格差をなくす

スタディクーポン

Study coupon



子どもたちの声

Messages from the Children

高校受験に向けてク・ボンを使い、オンライン塾を利用することが出来ました。

自分の分からない所や、苦手な科目について勉強し無事第一志望の高校に合格することができました。

月に1回あるチャット・フィールドの方との電話面談では短い時間でも楽しく会話することが勉強の合間のリフレッシュになりました。

宮城県／中学3年生

勢に通りましては赤点を取ってたり
もしていましたが、最後テストでは
80点を超える程まで勉強に取り組
む事が出来ました。自分でも「本気で
頑張れば何でもできる」と知り、その
良い機会を頂けたと思っています。

宮城県／高校3年生

僕は、学校に通うことができず、勉強する
手段が限られていました。
しかし、ご支援のおかげで自分に合った学び方や、
勉強環境を見つけることができ、今では不自由
なく勉強に取り組んでいます。
もし「支援がなければ、ここまで学びを進めることは
できなかったと思いますし、学ぶことへの意欲も湧か
なかったと思います。

兵庫県／中学3年生

塾では、苦手の数学を勉強していました。塾にかようことで、苦手を克服でき、進路の幅を広げることができました。このクーポンのおかげで塾にかようことができたので、寄付していただき本当にありがとうございました。

今年もクーポンを使わせていただくので、目標に向かってこれまで以上に頑張りたいと思います。

福島県／中学3年生

学習関係のことは「け」ではなく、他の習い事に利用
した「て」で、経済師の理由で「け」があるから「て」
いた。この「け」を「て」にする、そのまま続けようという「て」は「て」
この「け」に「て」は「て」の時から「て」を「て」していた
ため、辞めたという気持ちで「て」が強くなった。「て」
続けられたことは本当に嬉しかった。学習面でも「て」
4年間続けたことは「て」の「て」の「て」の「て」
という「て」。

東京都／高校3年生

自分はどうせ夢を見る事なんて無理、学校に通うのだから金がないと無理、私には下に2人の弟が居るので、父母が揃えばいい私には、母の経済力では、ワザマデを言えはい。同じ歳の女の子が新しい筆記用具を買ったのを見てきたり、旅行のお土産と涙を流しても、私には何も涙をはいし、筆記用具も10年5年生で買ったものを今でも使っている。私には、私にはと思う日々の中で、唯一光をもらったのがこのクーポンでした。塾はお金持ちの通る場所、自分の将来の夢は小児科医ですが、でもその為には、自分の努力だけに限界がありました。塾に通いたい、もっと学びたい、夢を叶えたいこのクーポンがあったおかげで、学ぶ事が出来ました、今でも学んでいる人だ、目覚めたい人だといふ人だと本当にうれしかったです。

埼玉県／高校1年生

2024年度のCFCの活動実績(2024.4-2025.3)

1,739名の子どもたちを支援

1,739名

支援した子どもの人数

約**2億9千万**円

クーポン提供総額



1,445回

**大学生ボランティア
面談回数**



4,875 教室

クーポン利用先数

※支援した子どもの人数およびクーポン提供総額は緊急支援とSMBCグループ・スタディクーポンを含む。

2025年度の計画 (2024年度にいただいた寄付金の使途)

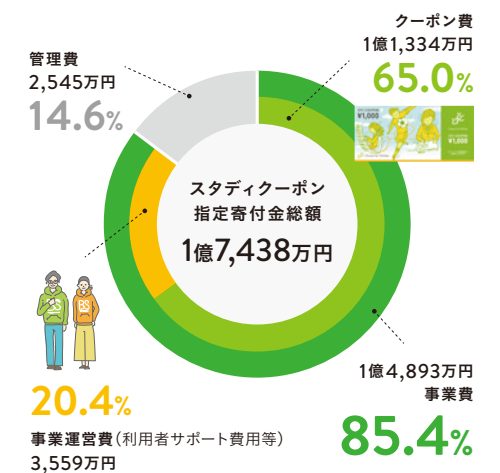
1億2,950万円分のクーポンを1,378名の子どもへ提供

2024年度にいただいたスタディクーポン事業への指定寄付金・賛助会費1億7,438万円のうち、85.4%にあたる1億4,893万円を事業費として使用します。このうち、1億1,334万円をスタディクーポンに充当します。445万円分のクーポンは年度中に緊急支援の一部として提供したため、残り1億889万円にその他の寄付金（運営費指定等）のクーポン充当分等を加え、2025年度は総額1億2,950万円分のクーポンを1,378名の子どもたちに提供する予定です*。残り3,559万円は、事業運営費として使用します。事業運営費の内訳は、クーポン利用者募集審査、利用者のサポート（コーディネーターによる相談支援、大学生ボランティア育成や定期面談）、教育事業者の募集審査、効果検証などの費用です。

※緊急支援含む。SMBCグループ・スタディクーポンは含まない。

スタディクーポン
指定寄付金・会費
用途に関するお約束

- 1 寄付金の85%※以上を子どもへの直接的な支援費として使用
※65%以上をスタディクーポン費、残り20%程度を事業運営費に充当。
- 2 寄付金の15%未満を法人の管理費※として使用
※子どもたちを間接的に支えるための費用。管理を行う職員の人件費、広報費等。



引き続きのご支援のお願い

物価高で家計がさらに切迫する経済困窮家庭と、
災害で経済的被害を受けた家庭の子どもたちに学びの支援を継続します

2024年度は、これまで活動を継続してきた地域での支援に加え、能登半島地震の緊急支援を実施しました。近年は物価高を背景に支援ニーズが一層高まり、CFCの調査では「約8割の経済困窮家庭が物価高で子どもの学習支出を減らした」ことが分かりました。また、能登半島地震の被災家庭は、9割超で子どもの教育機会が減少したことが分かっています。2014年に東日本大震災の被災家庭に実施した調査では、「貧困が長期化すると学習習慣や進学

期待が低下する」可能性が示唆されており、CFCでは貧困の連鎖の中で育つ子どもの支援に加え、突発的な災害で経済的困難に陥った家庭の子どもへの予防的な支援も重要だと認識しています。これらの状況を踏まえ、2025年度はこれまで活動を継続してきた地域での支援に加え、能登半島地震の緊急支援も継続して実施します。一人でも多くの子どものために支援を届けるため、引き続きのご支援をお願いいたします。



被災した子どもの「学び」を支えること

2024年1月に発生した能登半島地震を受け、CFCでは被災した子どもの放課後の学びを支えるべく、同年4月に緊急支援を開始しました。被災した252家庭の小学生から高校生の子どもたちを対象に、学習塾や習い事、部活動等の学校外活動費への助成を行っています。

取材／内藤 日香里 編集協力／望月 優大 写真／久米 凛太郎

震災からおよそ1年半。だが、CFCが支援する家庭の多くは、仮設住宅での生活や収入の減少など、今もお震災前の日常を取り戻せていない。

今回、私たちは2024年度からCFCの支援を活用している林雄太さん（仮名・現在中1）と父親の洋輔さん（仮名）からお話を聞かせていただいた。雄太さんには中3の兄と小5の弟がおり、バスケットボールをしていた父の影響で3人ともバスケを始め、今も続けている。

もう少し我慢して。
でも、支援があれば。

3人の子ども、そして祖母との生活を支える洋輔さんは、地元で農機店を営む。震災では自宅と店舗が大きな被害を受け、家族は現在も公営住宅で暮らす。自宅の再建には多額の費用が見込まれ、今年は長男の高校受験の出費も控えている。

経済的な重圧が日増しに高まる中、洋輔さんは学校のチラシを通じてCFCの支援を知った。3人のバスケットクラブの会費や部費などに活用できればとすぐに申し込んだ。

「将来のために出費を抑えるとなると、『シューズ（のサイズ）がきついけどもう少し我慢して』とか言わざるをえない部分もあると思うんですけど、支援があればね。『その分頑張るんだぞ』って」

逆境の中でも続けてきた。
大人たちも支えた。

小2でバスケを始めた次男の雄太さんは、今も中学の部活と地元クラブでバスケを続けている。震災直後は小5だったが、近くの体育館が避難所となり、クラブ活動が制限されてしまった。バスケを続けるために隣町のクラブと合同で練習することになり、送迎には周りの大人たちが率先して協力した。

その後、中学で入部したバスケ部は全部で8人。1年生の雄太さんも入部早々、試合で活躍している。今では「練習に行くことはもう当たり前で、テスト期間中にしばらく活動がないと落ち着かない」と言うほど大切な習慣だ。中学卒業後も続けていくという。「父のようになっこの強いバスケプレーヤーになるのが目標です」

2024年度は、能登半島地震で被災した449名の子どもたち（輪島市、七尾市ほか）を支援しました。地元の方からは、学習塾や習い事に参加する子どもが多い金沢市に対し、中・奥能登では塾や習い事よりも部活動に参加する子どもが多いという声がありました。また、被災地域から市街地等に避難したことで放課後の環境が変わった支援家庭も半数以上にのびります。多様な状況下にある子どもたちの放課後を支えるため、今回の助成は学習塾や習い事等に加え、部活動でも利用できるようにしました。

「習い事は贅沢なのではと思う気持ちもありましたが、子どもにかかるお金を削りやりたいことを我慢させたくはない。今だからこそさせてあげたい事、変わらずに続けさせてあげたい事がありました。」ある家庭からは、このような声が寄せられました。

有事の際、目の前の生活再建が急がれ、子どもの学びが後回しになりがちだからこそ、変わらぬ学びを支えていくことが重要です。災害下においても、子どもたちが学びをあきらめない社会に向け、今後も活動していきます。



雄太さんにはバスケ部の練習後にお話を聞かせていただきました。

2

2024年～2025年の
活動報告

子どもたちの体験格差をなくす

！ハロカル

子どもの
体験奨学金
HELLO! CULTURE & LOCAL!

2024年度のCFCの活動実績（2024.4-2025.3）

5地域で189名の子どもに体験機会を提供

2022年に「体験格差」の解消を目指し、子どもの体験奨学金事業「ハロカル」をスタートしました。2024年度は、これまで展開してきた東京・沖縄・岡山・石巻に加え、北海道でトライアル事業を実施。189名の子どもたちにスポーツや文化芸術、キャンプなどの体験機会を届けました。各地域では、子ども・家庭支援に取り組むNPO等が「地域コーディネーター」として活動しています。地域コーディネーターは、家庭の相談対応や地域の教室・クラブの開拓、行政や支援機関との連携を担い、子どもと地域の体験をつなぐ役割を果たしています。

保護者や子どもの声

音楽教室に利用

以前からずっとやりたかったフルートを習う事ができて大喜びです。親としては何でもやらせてあげたいけれど、金銭的には限度があるためとても感謝しています。子どもの世界が広がり、嬉しそうに通っています。

小学5年生の保護者

体操教室に利用

バク転教室に通い始め、1対1での指導なのでちゃんと話を聞き、頭で理解してから動作に移すという難しい課題が沢山ありましたが本人も諦めず頑張って楽しく通わせていただきました。日に日にバク転もある程度形になってきて、少しのサポートで飛べるように成長しました。

小学5年生の保護者

キャンプに利用

もともと友達づくりが得意で、キャンプに参加して仲良しをつくることをたのしみにしています。友達同士で小さなトラブルがあったとしても、自分たちで解決できる力がついてきたようです。

小学3年生の保護者

先生とお話をするのが楽しみになった。 やさしくなれたし勇気もついた。

小学2年生／音楽教室

小学5年生／スポーツ教室・キャンプ

「体験格差」の認知・関心の高まり

2024年に「体験格差」の現状を社会全体で共有し、解決に向けた議論の土台を作ることを目的に、代表理事の今井が著書『体験格差』を出版しました（講談社現代新書・2025年3月現在第8刷）。発売以降、多くの方に書籍を手にとっていただいたほか、テレビや新聞、ラジオ等200以上のメディアで書籍のご紹介やインタビューの機会をいただきました。また、最近では自治体や教育機関、学会等からも「体験格差」の課題や解決に向けた取り組みをテーマとした講演・研修講師のご依頼をいただいております。「体験格差」への社会的関心や課題意識の高まりを感じています。



様々な講演で「体験格差」についてお話しさせていただきました。

CFCスタッフからのご報告

News from CFC Staff



吉岡 新

東京事業部 ディレクター

2016年にCFC入職。2022年にCFCから退職出向、内閣府及びこども家庭庁で勤務し「こどもデータ連携」プロジェクトを担当。2024年からCFCに復職し、東京事務局で自治体協働事業や自主事業を統括。

スタディクーポン事業の広がりで協働先は9自治体に自治体が導入しやすいシステムの基盤づくりに挑戦していきます

2024年度は新たに3つの自治体と協働を開始しました。協働に際してはクーポンを届けるだけではなく、届けた先の子どもの関わりや意思決定のサポートにも力を入れて取り組んでおり、この点を自治体職員やケースワーカーの皆さまからも評価していただいています。1人でも多くの子どもに支援を届けるため、自治体とのさらなる連携は不可欠です。今後は、スタディクーポンのさらなる広がりに向け、自治体が少ない負担でスタディクーポンを導入・運営できるように、システムの基盤づくりに取り組んでいきます。



猿渡 由実子

子どもの体験奨学金事業
「ハロカル」担当

「ハロカル」専任スタッフとして2023年よりCFCに参画。各地で協働している地域コーディネーターの伴走支援や東京都墨田区で展開する体験支援プロジェクトを担当。

北海道から沖縄まで5地域で展開する子どもの体験奨学金事業それぞれの地域に根ざした取り組みを展開していきます

2024年度は、5つの地域でハロカルを実施しました。地域ごとに異なる背景や文化があり、対象家庭への周知方法や協力を得るべきキーパーソンも異なります。こうした地域特性をふまえながら、地域コーディネーターと戦略を立て、試行錯誤を繰り返しました。地域コーディネーターの強みは、地域のことを深く理解し、その地で活動する多様な関係者と連携していけることです。基本的な仕組みは共通ですが、コーディネーターの強みや地域リソースが合わさることで、各地に独自の「ハロカル」が生まれています。今後も地域コーディネーターとともに、地域に根ざした活動を展開します。

鎌倉市放課後エンパワーメント・プロジェクトが始動NPO×企業×自治体で全国初の事業モデルにチャレンジします

「鎌倉市放課後エンパワーメント・プロジェクト(エンプロ)」は、CFCと三井住友フィナンシャルグループ、鎌倉市の3者協働で教育格差の解消をめざす全国初の取り組みです。2024年度は市内121人の中学生にクーポンを提供するとともに、利用先の開拓に力を注ぎました。地域の教室に足を運んだり地元の集まりに参加したりすると、多くの方がエンプロの趣旨に賛同しともに子どもたちを支えようと動いてくださり、地域のつながりの強さを感じます。NPO・企業・自治体それぞれの強みを活かしながら子どもたちの学びを後押しするモデルとなるよう、引き続き活動していきます。



石川 謙太

東京事業部 協働事業担当

三井住友銀行に入行後、個人向け営業を担当。教育格差に対する課題意識から、2025年に自らの希望によりCFCへ出向。SMBCグループ・スタディクーポン事業や鎌倉市放課後エンパワーメント・プロジェクトを担当。

ご支援いただいた皆さま

2024年度は、延べ3,132名以上の個人の皆さま、149社の企業・団体の皆さまからご寄付をいただきました。温かいご支援、本当にありがとうございました。

企業・団体支援者

※スペースの関係で、一定額以上のご寄付をいただいた方のみを掲載しています。また、匿名希望者は掲載していません。※敬称略



豊田通商株式会社 / 株式会社KNT365 / 株式会社インフォマート / 稲穂スズキ株式会社 / 三栄製薬株式会社 / 株式会社協和ロープ / 株式会社フロンティア技研 / アマゾン仙台北カスタマーサービス / 株式会社アルティコ / CCCMKホールディングス株式会社 / 東レ建設労働組合・東レ建設株式会社 / 株式会社 Special Medico / 大平潤版株式会社 / ハーチ株式会社 / 株式会社バリュブックス / 株式会社クレスコ One%Club / 株式会社マリアージュ / 国際ソロプチミスト東京-新宿

助成団体



財務・会計報告

正味財産増減計算書の要旨 (2024年4月1日から2025年3月31日まで)

	科目	金額(円)
一般正味財産増減の部	1 受託事業収益	112,004,778
	2 受取入金・会費	60,000
	3 受取寄付金	100,000,000
	4 受取寄付金等振替額(指定正味財産からの振替額)	403,092,441
	5 雑収益	1,222,586
	収益計	616,379,805
	1 事業費	521,879,416
	CFCスタディクーポン事業費(自主事業)	358,485,373
	自治体等協働事業費(受託事業等)	163,394,043
	2 管理費	54,954,910
	費用計	576,834,326
	当期経常増減額	39,545,479
	当期経常外増減額	▲150,000
	法人税等	165,200
	当期一般正味財産増減額	39,230,279
指定正味財産増減の部	一般正味財産期首残高	33,751,756
	一般正味財産期末残高	72,982,035
	1 受取賛助会費	70,030,680
	2 受取寄付金	287,735,283
	3 受取補助金等	108,175,686
	4 一般正味財産への振替額	▲403,092,441
	当期指定正味財産増減額	62,849,208
	指定正味財産期首残高	453,575,774
	指定正味財産期末残高	516,424,982
正味財産期末残高		589,407,017

貸借対照表の要旨 (2025年3月31日現在)

	科目	金額(円)
資産の部	1 流動資産	135,980,575
	未収入金等	135,980,575
	2 固定資産	526,061,791
	特定資産	516,424,982
	その他固定資産	9,636,809
	3 繰延資産	268,968
資産の部合計		662,311,334
負債の部	1 流動負債	72,904,317
	未払金等	72,904,317
	負債の部合計	72,904,317
正味財産の部	1 一般正味財産	72,982,035
	(うち当期一般正味財産増減額)	39,230,279
	2 指定正味財産	516,424,982
	(うち当期指定正味財産増減額)	62,849,208
	正味財産の部合計	589,407,017
	負債及び正味財産合計	662,311,334

貸借対照表、正味財産増減計算書(損益計算書)及び財産目録は、法令及び定款に従い、法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

監事 保本 祥史

詳細は、WEBサイトで公開している財務諸表(PDF)をご覧ください。
<https://cfc.or.jp/finance>

皆さまからの温かいご支援をよろしくお願いいたします

●継続的なご支援「CFCサポート会員」 毎月1,000円～のご寄付で、子どもたちを支える方法です。

●今回のご寄付 ご都合の良いときに、任意の金額をご寄付いただけます。

金融機関 三井住友銀行 亀戸支店(支店コード:254)
銀行口座 口座番号 普通 7862751
口座名義 公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン

ゆうちょ 記号・番号 00160-6-265327
銀行 口座名義 公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン
(郵便振替)

※クレジットカードでのご寄付は以下WEBサイトから受け付けております。 ※銀行口座へのお振込みの方で、領収書が必要な方はチャンス・フォー・チルドレン事務局までご連絡ください。

●遺言によるご寄付・相続財産からのご寄付 ご自身や故人さまの大切な想いを、子どもたちの未来につなげていただませんか。

寄付金控除について

チャンス・フォー・チルドレンへのご寄付は、所得税、相続税、法人税などの税制上の優遇措置を受けることができます。

WEBからご支援いただけます。

CFC 寄付

検索

